

Editor's Choice



今月の編集部オススメのソフト&ハード

インターネットへの関心の高まりとともに、インターネットを楽しむための周辺機器や、ソフトウェアが店頭でも増えてきた。パソコンショップに行って何を買ったらいいかと悩んでいる、そんなあなたのために、編集部が厳選した、役に立つと思うハードウェアやソフトウェアを紹介するこのコーナー。価格、機能、ファイルサイズなどさまざまな視点から、独自の価値観でビシビシ評価する。ソフトウェアについては市販のもの、ネットワークで入手できるフリーソフト、シェアウェアなどを分け隔てなく、良いと思われるものはどんどん紹介しているので、製品を購入したり、ソフトウェアをダウンロードしたりする前に必ずこのコーナーを読んでチェックだ！

今月のラインナップ

テレビ感覚で各種ニュースが読める期待のニュース・オン・デマンド

PointCastNetwork

[作者：ポイントキャスト社]



アナログポートを2つ装備した低価格のISDNターミナルアダプター

TA777

[発売元：伊藤忠コミュニケーション]



停電でもアナログ電話が使える同期64Kbpsターミナルアダプター

AtermIT45

[発売元：日本電気 (NEC)]



WYSIWYGで編集できるフリーのHTMLエディター

HoTMetaL

[作者：ソフトクワッド社]



このコーナーの見方

各製品に付いている記号の意味は以下のとおりです。

- | | | | |
|--------------|-----------------|--------|------------------|
| : ウィンドウズ95用 | : 市販のハードウェア製品 | : 動作環境 | : バージョン |
| : ウィンドウズ3.1用 | : 市販のソフトウェア製品 | : 発売元 | : 作者 |
| : ウィンドウズNT用 | : シェアウェアのソフトウェア | : 電話番号 | : 入手先 |
| : マックintosh用 | : フリーウェアのソフトウェア | : 価格 | : 付属品 |
| : UNIX用 | : 付録CD-ROMに収録 | : 関連情報 | : ファイルサイズ/最速転送時間 |

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。

テレビ感覚で各種ニュースが読める期待のニュース・オン・デマンド



ポイントキャストネットワーク

PointCastNetwork(PCN)

👤: ポイントキャスト社

Free



ここがスゴイ!

- ① スクリーンセーバーにニュースを表示でき、勝手に更新してくれるので、テレビのように気軽に見られる
- ② WWWブラウザまで装備している専用ビューワーの完成度が高い
- ③ 専門のニュース配信会社のデータを使い、国際、政治、スポーツ、天気、株価、ビジネスなど豊富な番組を用意

ポイントキャストネットワーク(PCN)は2月にポイントキャスト社から発表されると同時にサービスが開始された、注目の新しいニュース・オン・デマンド・サービスだ。PCNチャンネルビューワー(PCN ChannelViewer)と呼ぶ専用のビューワーソフトを使うことにより、無料で国際、政治、ビジネス、株価、天気予報、スポーツ、運勢などの情報を受信して表示できる。既存のテレビやラジオなどのメディアと同様、広告をビューワーに表示していくことで直接的な収入を得て、利用者には無料でニュースを配信している。ポイントキャスト社ではすでに複数の広告代理店と契約している。

▶ スクリーンセーバーがニュース番組になる

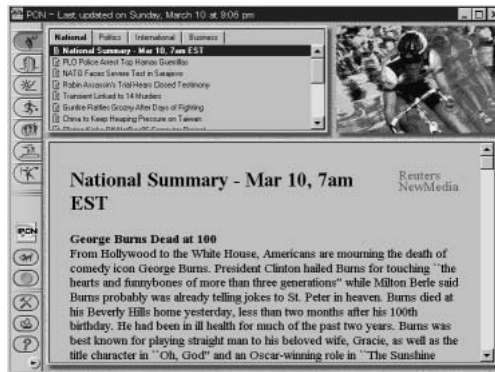
このソフトが画期的な点は、スクリーンセーバーが自動的に入れ替わり、セーバー起動時には自動的にニュースを受信して表示してくれる機能が付いていることだ。1つのニュースが固定して表示されるのではなく、次々とトピックが変わる。表示されたニュースをマウスでクリックすれば、自動的にビューワーが立ち上がり、該当するニュースの内容を表示してくれる。放っておけば自動的に更新してくれるので、仕事をしながらときおりセーバーに映し出されたニュースを眺める、というような使い方ができることだ。そのためにすぐにセーバーを立ち上げられるボタンまで付けるという気の配りようだ。

▶ 使いやすく完成度の高いPCNチャンネルビューワー

PCNチャンネルビューワー本体は各種ニュースの受信、表示、設定などを行い、WWWブラウザの機能も搭載した統合型のソフトで、完成度はかなり高い。ニュースのジャンル切り替えや機能選択は画面左のタブやボタンで簡単に行えるほか、画面表示は非常に凝ったものになっている。

▶ コンテンツだけでなくビューワーの機能も秀逸

広告の表示部分は多彩なアニメーション機能があり、WWW上の静的な広告ビットマップと違い、人目を引きそうだ。また、企業内での利用を考慮してプロクシーサーバーの設定が可能のほか、専用線接続がダイヤルアップ接続に合わせてニュースの更新タイミングを設定できるようになっている。



① スクリーンセーバーの画面

② ニュースの画面。右上の絵は広告の一場面

PCNのコンテンツ

ニュース	アメリカ国内、国際、ビジネス、政治の最新ニュース。
企業情報	PR通信、S&Pカムストックによる最新ニュースと6週間の株価チャート。指定した企業のみを表示することができる。
スポーツ	大リーグ、NFL、NBA、NHL、大学フットボール、バスケットボール、ゴルフ、テニスの最新ニュースと試合結果。
インターネット	「Internet」のタブ押しと、WWWブラウザの機能が呼び出される。残念ながら、それほど機能は多くない。
天気予報	指定した都市別の天気予報、天候情報が配信される。各種天気図や衛星写真図などあり。
産業情報	35種類以上の産業情報を選択し、その最新ニュースが読める。ニューヨーク証券取引所、アメリカン証券取引所、ダウジョーンズなどを含む経済情報が配信される。
ライフスタイル	映画などのエンターテインメント関係の最新ニュース。また、設定した星座の星占いデータも配信される。

▶ ネットスケープナビゲーターのプラグインへの対応も予定

現在のビューワーは評価用の版(0.9)として配布されているが、ポイントキャスト社ではすでにネットスケープ社との協力関係を結んでおり、春ごろにリリース予定の正式版1.0からはネットスケープナビゲーターのプラグインに対応するという。ほかに、ロサンゼルスタイムズ、金融情報のポストン・グローブ、コンピューター関連の出版社CMPパブリケーションなどもニュース提供に関して合意しているとアナウンスしている。

インターネット上で一般の誰もが無料で利用できる初めての本格的ニュース・オン・デマンドであるPCNは、今後の動向が注目される。ただ、現在のところ日本語を表示することができないし、早期の日本語化を期待したい。米国の情報に興味がある人にはおすすめだ。

(石橋文健)

PointCastNetwork

Ver. : 0.9

👤 : ポイントキャスト社

📄 : URL <http://pioneer.pointcast.com/beta/download.html>
(ウィンドウズ3.1/95用)

📏 : 1414.9Kバイト/504秒

🌐 : URL <http://www.pointcast.com/>



アナログポートを2つ装備した低価格のISDNターミナルアダプター

TA777

¥ : オープン価格 (通販価格 37,800円) 伊藤忠コミュニケーション

ここがスゴイ!

- ① モデムに迫る低価格
- ② アナログポートを2ポート装備しており、電話とモデムを同時に使える
- ③ 非同期-同期変換PPP機能を搭載

「TA777」はアナログポートを2ポート装備したISDN用のターミナルアダプターだ。NTTの「MN128」を皮切りに、最近ではターミナルアダプターの新製品の発表が多い。それらの中でもTA777は、価格の安さが魅力だ。

▶ 驚くほどの低価格

TA777の価格はオープン価格だが、通信販売での価格は37,800円だ。「MN128」よりも2,000円安い。この価格は少し高めめの28800bpsのモデムと同じくらいの水準だ。今年に入ってから相次いで低価格のターミナルアダプターが各社から発表されているが、TA777は中でもひととき安い、いよいよターミナルアダプターがモデムと同じ感覚で買える時代が到来したようだ。

▶ 基本的な機能は網羅

低価格ということで機能が削られているかと言えば、そうでもない。TA777は同期64Kbps、非同期57.6Kbps、38.4Kbpsをサポートしている。ISDNをサポートしているプロバイダーは昨年と比べると増えてきたが、まだ非同期か同期のどちらか一方にしか対応していないプロバイダーは少なくない。TA777が一台あれば非同期と同期の双方に対応しているので、プロバイダー選びの選択肢も広がる。

▶ アナログポートを2ポート装備

TA777に「安いからといって手を抜いているわけではない」という開発者の意気込みを感じるのは、アナログポートを2ポート装備している点だ。従来のターミナルアダプターではアナログを1ポートしか装備してい

ないものが多かった。確かにISDN通信と電話を同時に楽しめればよいというのなら、アナログポートはアナログ用電話を取り付ける口として1つあれば十分のように見える。

しかし、アナログが2ポートあれば、モデムやファクシミリを装着できる。ISDNの利点に2つの回線を同時に使えることがあるが、それならばターミナルアダプターを使っていないときその長所を生かしたい。まだパソコン通信ではモデムを使う場面も多いだろう。アナログポートが2つあれば、電話とモデムを同時に使うこともできるのだ。

▶ 同期-非同期変換PPP機能を搭載

TA777には、同期-非同期変換PPP機能が搭載されている。これはシリアルポートの速度が非同期でも、TAが同期64Kbpsから非同期57.6Kbpsに変換するため、同期64Kbpsでの通信を可能にする機能だ。

▶ 128Kbpsの通信はサポートしていない

NTTが今年に入ってから発売したMN128は、ISDNの2チャンネルを同時に使う機能(バルク機能)を付けたことが大きな特徴だった。この方式を使えば128Kbpsの通信を楽しむことができる。TA777にはこの機能がないが、実際にはまだプロバイダー側で128Kをサポートしているところが少ない。端末型ダイヤルアップサービスの場合、ISDNで128Kbpsをサポートしているのは、3月現在で編集部が確認しているかぎりではたった1社だけである。しかも、128Kbpsの通信については、まだ個人向けサービスの実績がほとんどないので、「128Kbpsをサポートしているならば、どんなターミナルアダプターとも完璧につながる」というわけではないようだ。普及にはまだ時間がかかると思われるので、今TAを買おうと思うならば、128Kbpsでの通信はあまり気にしなくてもよいかもれない。

▶ シリアルケーブルはいろいろなパソコンに対応

同梱されているシリアルケーブルは、PC-98シリーズで使われるRS-232Cコネクターと、マッキントッシュ用のコネクターとが二股に分かれている。さらにRS-232Cコネクターの21ピンから9ピンへの変換コネクターも付属しているので、これを付ければIBM-PC互換機にも接続できる。このケーブル1本で3つのプラットフォームに対応できるのはうれしい。



コンパクトな筐体。縦置きにもできる



試用レポート

▶ モード設定は少し難しい

今回使用したものはあくまでもプロトタイプだ。正式出荷日は3月27日で、実際に出荷されるものは設定やマニュアルが違ふことをお断りしておきたい。

試用したマシンはコンパクトのプロリニア590だ。OSはWindows95で試してみた。ネットワーク情報サービスが提供する「NISインターネットサービス」に同期64Kbpsでダイヤルアップしたところ、接続に成功した。

実はここまでするには時間がかかった。というのも、TA777には、ATコマンドモードではなくV.25bisモードという、パソコン通信やインターネットで使う際にはあまり一般的でないモードがある。Windows95上でインターネット接続に使うには、ATコマンドモードを標準にする必要があるが、モードを変えるにはそれぞれ違う設定をして、TA自体に記憶させなければならない。今回テスト用としてお借りしたものはこの設定がV.25bisモードだったらしく、少々手間取った。Windows95に標準装備の「ハイパーターミナル」を使ってATコマンドを打ち込み、設定を変える必要があった。このあたりの設定の変更は、やはり初心者には少々難しいかもしれないが、問い合わせたところ、出荷時にはATコマンドで設定できるようになっているとのことだ。

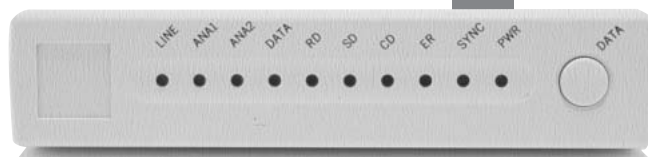
▶ Windows95用のINFファイルはネットワークからダウンロード

Windows95用の設定ファイル(.INFという拡張子のファイル)は付いていない。TA777を使うには、Windows95上で「標準のモデム・28800bps」を選ばばよい。追加のATコマンドの設定も特には必要ないが、ターミナルアダプターなのにモデムを選ばなければならないというのは、初心者にとってみれば混乱を招くところだ。

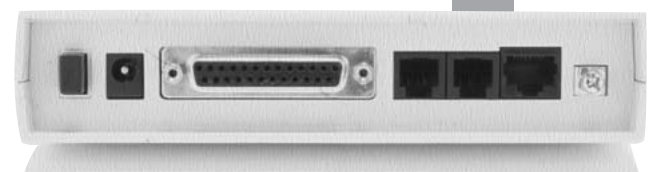
ただし、テスト機には添付されていなかったものの、実際に出荷される製品には、通常のマニュアルとともに、Windows95用の設定マニュアルを付けるということなので、初心者も簡単に設定ができるようになるそうだ。これにはぜひ期待したい。

また、Windows95用のINFファイルもパソコン通信のフォーラムでダウンロードできるようにする予定とのことだ。ディスクを付けないのは、「コストがそのぶん上がってしまっただけに価格に影響するから」とのこと。通販価格で37,800円はぎりぎりの価格だという。

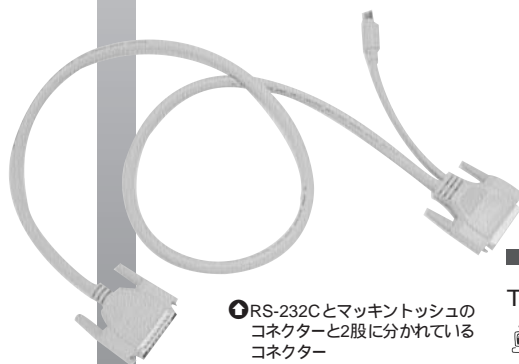
(編集部kataoka@impress.co.jp)



① 正面から見たところ。各種インジケータとデータスイッチ。データスイッチはモードを強制的に変えるときに使うが、初心者がいじる必要はほとんどないだろう








② 裏側から見たところ。左から電源スイッチ、シリアルコネクタ、アナログポート1、アナログポート2、ISDNポート



③ RS-232Cとマッキントッシュのコネクタと2股に分かれているコネクタ

TA777

-  : Windows3.1かWindows95を搭載したIBM-PC互換機、NECのPC-98シリーズ(BX4以前は高速RS232Cボードが必要)、マッキントッシュ
-  : 伊藤忠コミュニケーション
-  : 03-3497-3083
-  : オープン価格(通販価格37,800円)
-  : ACアダプター、ISDNモジュラーケーブル、シリアルケーブル、RS232C変換コネクタ



停電をしてもアナログ電話が使える同期64Kbpsターミナルアダプター

AtermIT45

¥ : 49,800円 日本電気 (NEC)

ここがスゴイ!

- ① 同期-非同期PPP変換機能を持ったターミナル・アダプター
- ② 充実したユーティリティプログラム
- ③ 停電でもアナログ電話が使える

「AtermIT45」は、同期64Kbpsと非同期57.6Kbpsで通信できるISDN用ターミナルアダプターだ。前ページでとりあげたTA777に価格では負けるが、各種ユーティリティやドライバーソフトの同梱にはそれを補う魅力がある。

▶ 同期-非同期PPP変換機能を搭載

AtermIT45は、同期-非同期変換PPP機能を持っている。前モデルの「AtermIT35」から搭載された機能で、同期64Kbpsを非同期57.6Kbpsに変換することで、同期64Kbpsのデータ通信を外付けの機器から可能にしている。

▶ ウィンドウズ95用、NT用の設定ファイルを添付

ウィンドウズ95用とNT用のモデム設定ファイルが同梱している。ウィンドウズ95のモデムウィザードで、「ディスクの使用」を選ぶことで簡単にインストールできる。わざわざATコマンドを入力して設定する必要がないので、初心者にもおすすめだ。

▶ ユーティリティプログラムは秀逸

さらに特徴的なのが、添付のユーティリティプログラムだ。このプログラムはアナログポートの電話番号の設定やサブアドレスの設定、通話時間を表示する機能などがある。パソコン側のシリアルポートの設定や、同期-非同期PPP接続機能を使うか使わないかなどの切り替えもこのソフト上で操作できる。通話中の接続状態もチェックできるようになっているので、インジケータだけだと分かりにくいと思っている人にはおすすめだ。

▶ 停電してもアナログ電話が使える

また、NTTの「MN128」や今月同時に掲載してい

る「TA777」にはない特徴として、停電時でもアナログ電話による通話ができることが挙げられる。ISDNの場合、アナログ電話を使う場合にはTAに電源が入っていなければ電話が使えない。DSUに直結するタイプのISDN用のデジタル電話なら局から給電されるが、アナログポートにアナログ電話をつないで使う場合、停電したらお手上げなのだ。AtermIT45の場合、乾電池を入れておくことで、停電しても十数時間はアナログ電話を使うことができる。「ISDNは引きたいけど、災害のときに電話がつかなくなってしまうのは心配」という人にはおすすめである。

▶ ステルスコールバック機能を装備

この機能は会社のLANに外からリモートアクセスする際に有効な機能だ。会社側にもAtermIT45を準備しておく必要がある。通常のコールバックでは自宅から発信していったん会社にかけて電話を切り、会社から電話がかかってくるのを待つ必要がある。しかし、ステルスコールバックを使えば会社側のTAが電話発信者が発する通知を認識して、回線を接続せずにクライアント側へかけ直す。接続しないので自宅から会社にかける際に料金はまったくかからないというわけだ。個人が家庭で使う分には必要ないが、リモートアクセスを検討している会社は要チェックだ。

▶ アナログポートは2つ、バレル転送機能はなし

前モデルのAtermIT35は、同期-非同期PPP変換機能が大きな人気を呼んだが、アナログが1ポートしかなかったのが残念だった。AtermIT45はこの点が改善され、2ポート付いている。

また、NTTの「MN128」にあるような128Kbpsでの通信機能はない。

AtermIT35にくらべてシンプルなデザイン



試用レポート

▶ **Windows95に設定ファイルを入れるだけでOK**
 実際に接続してみた。試用に使ったのはコンパクトのプロリニア590だ。OSはWindows95。モデムウィザードを起動させて、Windows用の設定ファイルをインストールする。ディスクを入れて「ハードウェアメーカーが提供するディスクを使用」を選ぶと、「AtermIT SYNC115（同期）」と「AtermIT ASYNC115（非同期）」とが表示されるので、自分の契約しているプロバイダーで接続可能な方式を選ぶ。「NISインターネットサービス」に同期64KbpsでPPP接続を試してみたところ、接続に成功した。

▶ **Windows3.1用の57.6Kbpsドライバーが付属**
 今度はWindows3.1での接続も試してみた。試用に使ったのはNECのPC-9821Xa7だ。じつは、AtermIT45の前モデルの「AtermIT35」を以前同じマシンで接続を試したとき、PC-9821Xa7にプリインストールのWindows3.1用のシリアルドライバーが57.6Kbpsをサポートしていなかったために、接続できなかったことがある。結局は高速RS232Cボードを使わなければならなかった。マシンは115.2Kbpsまで出るパフォーマンスを持っているのに、ドライバーがないというだけでわざわざボードを買い足さなくてはならなかった。

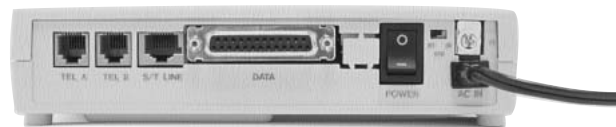
しかし、AtermIT45には57.6Kbpsまで出すことのできるドライバーが付属している。Windows3.1環境のままのユーザーにはうれしい。ただし、ハードウェアの方が高速のRS232Cを装備していなければこのドライバーは意味がない。旧機種で19200bpsまでしかサポートしていない機種では、やはり高速RS232Cボードが必要となる。

▶ **Windows3.1でも問題なくOK**
 プロトコルスタックはアライドテレシスの「インターネット・コレガ」を使用した。IIJに同期64Kbpsでダイヤルアップしたところ、何の問題もなく接続に成功した。「インターネット・コレガ」には前モデルの「AtermIT35」のモデム設定用ファイルが入っているが、「45」の設定はない。一応「35」を指定してみたところ、接続に成功した。どうやら初期化コマンドは「35」と同じようだ。NECに問い合わせたところ、「35」の設定はそのまま使えるということで正式にサポートしているという。

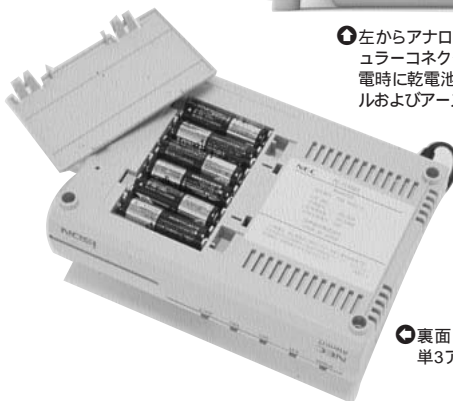
また、NECのホームページには「Aterm Station」というコーナーがあって、動作試験の結果などが掲載されている。ちなみに試用した「インターネット・コレガ」は3月11日現在、「動作確認されているソフト」の一覧には見られなかった。

▶ 初心者にやさしいITA

今年になってからアナログ2ポート、同期・非同期PPP変換機能というスペックのTAが各社から相次いで発売されており、この2つの要素が揃ったTAが売れ筋となっている。その中でもAtermIT45は、Windows95用設定ファイルや親しみやすいユーティリティプログラムなどが添付されており、初心者にやさしいターミナルアダプターと言えるだろう。モデムの設定にすら自信のない人にぜひおすすめの一品だ。（編集部 kataoka@impress.co.jp）



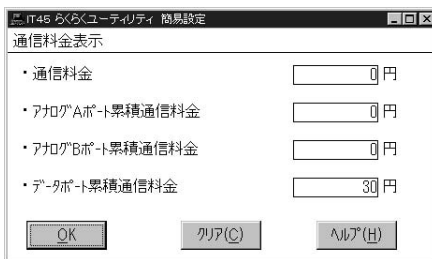
① 左からアナログポートA、アナログポートB、ISDNモジュラーコネクタ、シリアルポート、電源スイッチ、停電時に乾電池で動作させるときのスイッチ、電源ケーブルおよびアース



② 裏面には乾電池フォルダーがある。単3アルカリ電池を6本入れる



③ 付属のユーティリティプログラムの画面



④ 通話料金が表示される

AtermIT45

：Windows（3.1、95、NT）、OS/2Warp（PC-98シリーズのみ）を搭載したIBM-PC互換機、NECのPC-98シリーズ（BX4以前は高速RS232Cボードが必要）およびマッキントッシュ

：日本電気（NEC）パーソナルコミュニケーションインフォメーションセンター

：03-3798-7862

：49,800円

：縦置きスタンド、ISDN用ケーブル（3m）、RS-232Cケーブル、Dサブ9ピン変換コネクタ、IT45らくらくユーティリティ、Windows3.1用57.6Kbps拡張COMドライバ、Windows95用モデム定義ファイル、C&Cインターネットサービス meshウエルカムキット、PC-VANウエルカムキット



フリーウェアの多機能HTMLエディター

ホットメタル・フリー 2.0

HoTMetaL free 2.0

ソフトクワッド社

ここがスゴイ!

- ① WYSIWYGで編集できるHTMLエディター
- ② ネットスケープの拡張機能を一部サポート
- ③ リンクを一括変換できる
- ④ フリーバージョンが用意されている

「ホットメタル (HoTMetaL)」はSGMLツールの老舗、カナダのソフトクワッド (SoftQuad) 社のHTMLエディターだ。技術サポートなし、商用利用禁止のフリーバージョンが入手可能で、より高機能な商品版へのアップグレードパスもある。日本語版ではないが、日本語フォントはきちんと使える。

▶ マルチプラットフォームで利用可能

ホットメタル・フリー (HoTMetaL free) 2.0は商品版のホットメタル・プロ2.0がどのような商品かを確かめてみたい人のために用意されている、簡易版のHTMLエディターだ。簡易版とは言え、無料で提供されており、WYSIWYGでHTMLファイルの作成・編集が可能であるのは大変魅力的だ。マッキントッシュ用の68K版、PPC版、ウィンドウズ版 (3.1、95、NTで利用可能)、UNIX版 (ソラリス2.4、2.5用) の3つのプラットフォームと4つのバージョンが用意されている。

ホットメタル・フリー2.0はオンラインで入手するので印刷されたマニュアルはないが、完全なHTML形式のマニュアルが「HELP」フォルダーに用意されており、手持ちのWWWブラウザで使い方を勉強できる。内容は英語であるがさして難しくはないだろう。HTMLの標準が更新されたり、ネットスケープ拡張タグのような新たな機能が付け加えられたりしても、アップグレードファイルをソフトクワッド社のホームページからダウンロードすることができ、即座にサポートされるようになっていく。

▶ ネットスケープの拡張タグをサポート

ホットメタルはHTML2.0だけでなく、ネットスケープが独自にサポートしている拡張タグを一部サポートしている。クリッカブルマップの編集機能などがサポートされている点は評価したい。ただ、フレーム機能の未サポートなど、最新の機能にすべて対応しているというわけではない。

初心者うれしいのは、テンプレート機能だ。あらかじめホームページ・フォーム・アウトラインなどのテンプレートが用意されているので、必要に応じて入力してだけでHTMLファイルが作成できる。

エラーチェック機能もある。作成中

は常に構文エラーをチェックしており、チェックする構文もHTML2.0、HTML3.0、ネットスケープ拡張タグの3種類を組み合わせ指定できる。これは既存のHTMLファイルをホットメタルで開く際にも自動的にチェックされ、エラー内容も教えてくれる。構文チェックはかなり厳しい。

▶ リンクを一括変換する機能をサポート

特筆すべき機能は、ローカルハードディスク上で編集する際に張ったローカルリンクを一気に実際にページを公開するサーバー上でのリンクに一括変換できることだ。ページミルでも標準ではサポートしていない機能である。ページを多く持つユーザーには便利な機能だ。

他のHTMLエディターにあまり見られない機能は、HTMLタグ、URL、画像、制御文字などを表示するの自由な設定ができることだ。どのようなタグが生成されているかを確認したい人の要求にも応えている。タグなどを非表示にすれば、ほぼブラウザで表示されるのと同じ状態にすることができる。

▶ 多機能なHTMLエディター

ホットメタル・プロ2.0の基本的な機能は全部提供されており、ホットメタル・フリー2.0でも十分にHTMLファイルの作成・編集が可能だ。あまりにも機能が多いため最初はなかなか覚えられないかもしれないが、じっくりと使い込むほど味わいがでてくるソフトだろう。

(岡井透)

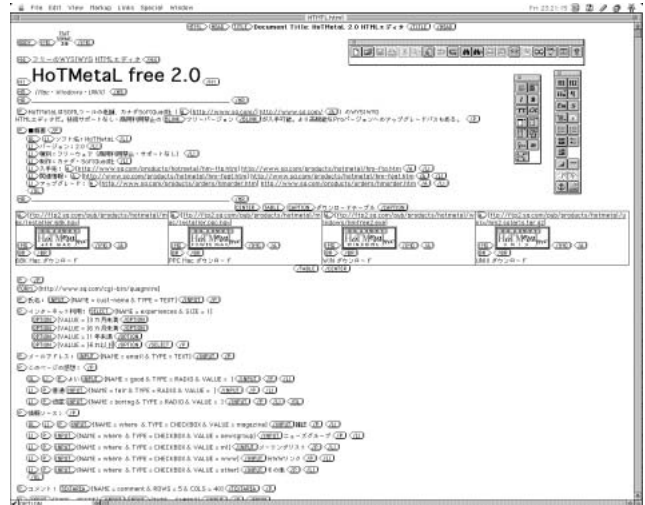


図1)ホットメタルで編集しているところ



HoTMetaL Free

Ver. : 2.0

ソフトクワッド社

URL <http://www.sq.com/products/hotmetal/hm-ftp.htm>

1557Kバイト/9分14秒 (ウィンドウズ3.1/95用)

1636Kバイト/9分42秒 (68Kマッキントッシュ用)

2077Kバイト/12分19秒 (パワーマッキントッシュ用)

2373Kバイト/14分5秒 (UNIX用)

URL <http://www.sq.com/products/orders/hmorder.htm> (アップグレード情報)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp